

総合診療室（総診）を経験して

総合診療室を経験して

歯学部6年生 北山 暁子



5年生の11月に総診での臨床実習が始まり、実習期間もいつの間にか残りわずかになってきました。先輩から患者さんを引き継ぎ、総診での治療を開始したものの、始めは何をするにも戸惑っていました。しかし、ライターの先生方の熱心なご指導のもと、看護師さんや衛生士さん、先輩や同級生たちに支えられて、無事実習を進めていくことができました。その中で、私たちは臨床実習でしか得ることのできないたくさんの事を学び、感じる事ができたと思います。

実際の治療では、初めてのことばかりで、最初は顔の筋肉まで緊張していました。挙動不審な行動もとっていたような気がします…。しかし、こんな状況だからこそ、治療で何かうまくできた時や、患者さんが喜んでくれた時の達成感や喜びはとても大きなものがありました。初めて自分で充填がうまくできたとき、その日一日とてもいい気分でごせました。クラウンを合着したとき、患者さんが満足してくれて、ライターの先生が「いいクラウンが入ったね」と言ってくれた時、製作の過程を思い出しながら喜びに耽っていました。今後、歯科医師として働き始めれば、このような治療は次々こなしていくことになるでしょう。そんな中で、総診で感じたこの気持ちは、これからの歯科医師人生でとても大切で、忘れてはいけないものであると思います。

このように私たちが実習でたくさんのことを学び、感じる事ができたのは、すべて患者さんあってのことです。患者さんにとっては、初めて患者さんに触る学生にビクビクしながら治療され、

1年経って少し慣れてきたかと思うと、また初めての学生に引き継がれていくのです…。口唇を引っ張るミラーの痛みや、長時間ユニットに座る腰の痛みにも耐えてくれます。仏の心をお持ちなのでは…と愚かにも思えてきます。そんな患者さんに対して私たちができることは、感謝の気持ちを忘れずに、今の治療を精一杯がんばり、勉強し、成長することしかないと思います。

私が総合診療室を経験して得たことは、治療の技術の基本を学ぶことだけではなく、歯科治療に対する考え方、患者さんに対する姿勢といったとても大切なことを学べたことだと思います。

総合診療室を経験して

歯学部6年生 服部 義



総診で患者さんを診させてもらって、もう7ヶ月も経ちました。総診という場所には慣れましたが、まだまだ戸惑うことが多い毎日です。なのに、総診での臨床実習はあと3ヶ月。やらなくてはならない事が山積みなのに、時間がたりません。

5年生までは、講義や基礎実習などをやってきていましたが、いまいち理解していなかったというか、ポーっと過ごしてしまっていたように思われます。けれど、今までの先輩方みんなが言っていると思いますが、5年生までの講義などをしっかり聞いていれば良かったのに…というのは、僕も同じです。患者さんを治療する前には予習をするのは当たり前ですが、予習に使うプリントなどは5年生までに講義や実習で使ったものばかり。中には記憶にないような内容のものまであります。それを見ているとき、いつも、「あの時ちゃん

とやっていたら、今こんなに疲れないのに…」と
思っています。

とはいえ、総診の実習があつて本当に良かった
というのが一番の感想です。こんなふうに実際に
患者さんを診療できる大学はそんなに多くないと
聞いています。総診が始まった頃は患者さんの口
の中を触るだけでもびくびくしていたのに、今で
は触るくらいなら…、ポケット診査くらいなら…
というところまで上達しました。それになにより、
患者さんとのコミュニケーションのとりかたが、
大分わかってきたような気がします。実際、治療
している時間よりも、お話をしている時間の方が

長いような気がしますし、技術のない僕ができる
唯一のことといたら、患者さんに真摯な気持ち
で接して一生懸命にがんばることぐらいなので
す。その分、ライターの先生方にはご迷惑をおか
けしたり、時には自分の勉強が至らなくてお叱り
を受けたりとしていますが。

僕の歯科技術がどのくらいまくなったかは自
分で判断できませんが、卒業するときに、この総
診をなんとか乗り越えて、外に出てもゼロからの
スタートではないと思えることが、僕にとっては
大きな支えとなると信じています。

